
世界のことを考えている

麻生佳太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界のことを考えている

【Nコード】

N2641Q

【作者名】

麻生佳太

【あらすじ】

広告制作事務所で働く青年に、唐突に降って来る不思議な言葉。同僚との関係を変えようとした時に起こった事とは。

(前書き)

唐突に始まり、唐突に終わります。

例えば、昼飯のカップラーメンを買って、お湯までコンビニで入れてもらって零さないように歩いているとき、規則正しく配置されるその白線の上を車に注意しながら渡る時、不意にその言葉が降りて来る。

世界のことを考えている

見上げると、事務所の窓に同輩の有貴ゆうきが見えて、冬哉とみやは目を顰めた。

＊ ＊ ＊

「徳永か？」

自分で作って来たと言う、外見の割にはとてもマメなその弁当箱を開きながら、冬哉の上司であるA Dは箸を持ち上げた。

「ああ、俺達が昼休憩を終えるぐらいに外に出ているぞ」

「そうですか」

三分経ったであろう、カップラーメンの蓋を切り取って箸を割る。昼食は各々自由にとる。同期入社の有貴は決して誰かと社内で昼食をとるということはせずに、社外に出ているようだ。自分たちはデザインを扱うこの会社では一番の年少で、それなりに比べられたり競わされたりするのであるが、なんだかんだ言って他者とのコミュニケーションが出来る冬哉と違って、有貴は浮いているように感じられた。彼女のあの目線はきっと、自分が昼食を買い終えて戻るのが見計らって出て行く為のものなのだと、何となく思った。

＊ ＊ ＊

世界のことを考えている。

夕方近くに、今度は夕飯のつもりで菓子パンを一つ買うのが冬哉の習慣だ。白い横断歩道を進んで、ビルの谷間からピンク色に変わって行く狭い空を眺めると、またいつもの言葉が頭の上から降ってくるのだ。世界とは何だ。

別に世界の情勢のこと等ちっとも一切考えてはいないのだ。テレビを持たない自分にとって、世界とは、この小さなデザインの制作会社であり、食べ物を得る為のこの道であり…

そうしてそうして。

見上げるとまた有貴がこちらを見下ろしているのが見えた。

＊ ＊ ＊

チョコチップメロンパンを持って階段を二段飛ばしで事務所に向かう途中で有貴とすれ違った。一瞥して去ろうとする彼女に声をかけたのは気まぐれであったのだろうか。

「おい」

「何」

意外にも有貴は素直に階段を立ち止まった。

「お前何で僕達と時間ずらして飯食うんだ？」

単刀直入に冬哉が聞くのに、有貴は気まずげに目線を泳がせる。

「：特に意味等ない、時間ずらした方が電話番号が居て皆もいいでしょう」

「電話なんて咀嚼してしまえば昼飯食いながらも、誰かが取れるさ」

たまには一緒しろよ、いつまでたっても、

僕も皆もお前のこと知れないじゃあないか。

冬哉のとても素直な言葉に、有貴もほだされたのであろうか、何と頷いたのだ。

「じゃあ明日は昼飯を持って来る」

私も、皆と食べるよ。

＊ ＊ ＊

世界のことを考えている。

ウキウキ気分で横断歩道の信号が変わるのを待つ。

今日はずっと気にかけていた少女と食事を共にするのだ。

見栄を張って普段は食べない様な弁当を買い込んで来た。

秋の晴れ間の日差しで、白いラインが清潔すぎるほどの眩しさを放つ。

渡りながら見上げると有貴がやはりこちらを見下ろしていた。

いつもより穏やかな眼差しに、不本意ながらも心を奪われる。

そうして唐突に理解したのだ。

世界とは君のことで、僕はずっと…

「お前のことを…」

瞬間横からの衝撃に、自分の身体が高く高く飛び上がるのを感じた。自分を叩き上げたトラックの後方をスローモーションのように飛んで、飛んで。

どうすることも出来ずゴシヤリと仰向けに落ちた。

見上げた空は青く、窓越しの有貴が酷く焦って背を向けた瞬間が見えた。

遠のく意識の狭間で、空からの言葉を理解した自分に少なからず満足した冬哉は、穏やかに笑んだ。

(後書き)

読んで下さってありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2641q/>

世界のことを考えている

2011年1月26日12時43分発行